

## 令和8年1月1日現在の世帯数と人口

(千種区 18.18Km<sup>2</sup>)

学区名	世帯数	人 口			対前月増減	
		総数	男	女	世帯数	人口
1 千 種	6,205	9,647	4,815	4,832	△ 5	3
2 千 石	4,356	7,044	3,519	3,525	△ 16	△ 12
3 内 山	6,149	8,371	4,465	3,906	△ 15	△ 11
4 大 和	3,755	6,764	3,374	3,390	△ 1	0
5 上 野	7,603	15,383	7,515	7,868	1	△ 12
6 高 見	7,796	13,656	6,536	7,120	23	55
7 春 岡	7,593	11,449	6,083	5,366	△ 15	△ 15
8 田 代	11,589	22,097	10,568	11,529	△ 9	△ 15
9 東 山	10,465	18,876	9,240	9,636	△ 17	△ 20
10 見 付	4,633	8,375	4,207	4,168	△ 18	△ 27
11 星 ケ 丘	3,615	6,811	3,016	3,795	1	0
12 自由ケ丘	3,546	6,984	3,166	3,818	0	△ 5
13 富士見台	6,443	14,691	6,650	8,041	△ 2	6
14 宮 根	3,861	7,838	3,597	4,241	△ 11	△ 14
15 千代田橋	3,752	7,975	3,710	4,265	△ 24	△ 28
千 種 区 計	91,361	165,961	80,461	85,500	△ 108	△ 95
R7.1.1	90,194	165,724	80,354	85,370	△ 48	△ 68
対 前 年 比	1167	237	107	130	△ 60	△ 27
名 古 屋 市	1,196,466	2,339,485	1,148,102	1,191,383	0	△ 541
愛 知 県 ( R7.12.1 )	3,416,735	7,453,361	3,712,380	3,740,981	767	△ 1,667

前月中の増減内訳	自然動態			社会動態		
	出 生	死 亡	自然増減	転 入	転 出	社会増減
	86	142	△ 56	1,147	1,186	△ 39

【参考】

国勢調査千種区人口				これまでの最大人口と最小人口(千種区)	
昭和60年	163,762	平成17年	153,118	最大人口	173,598 (昭和50年2月1日)
平成2年	156,478	平成22年	160,015	最小人口	146,727 (平成11年4月1日)
平成7年	148,847	平成27年	164,696		
平成12年	148,537	令和2年	165,245		

注) 学区別の世帯数と人口は、令和5年国勢調査結果を基礎とした本市独自の推計値であり、後日総務省から公表される数値と異なる場合があります。

統計なごやweb版 <http://www.city.nagoya.jp/shisei/category/67-5-0-0-0-0-0-0-0-0-0.html>

## 名古屋市と千種区の救急活動状況

今回は名古屋市の救急統計情報に基づいて、名古屋市と千種区の令和5年の救急活動状況をみていきます。

まず、名古屋市の状況からみていきます。(図1) 救急出動件数が多い順に、中村区、中川区、中区と続き、千種区は7番目です。次に搬送人数を各区の人口毎にみてみますと、中区は約10人に1人、中村区は約11人に1人と年間で多く運ばれています。これは、繁華街やオフィス街が集中し、人流が多いため搬送人数が増えているものと思われます。名古屋市全体では約17人に1人の市民が、千種区でも約17人に1人の区民が救急車で搬送されています。

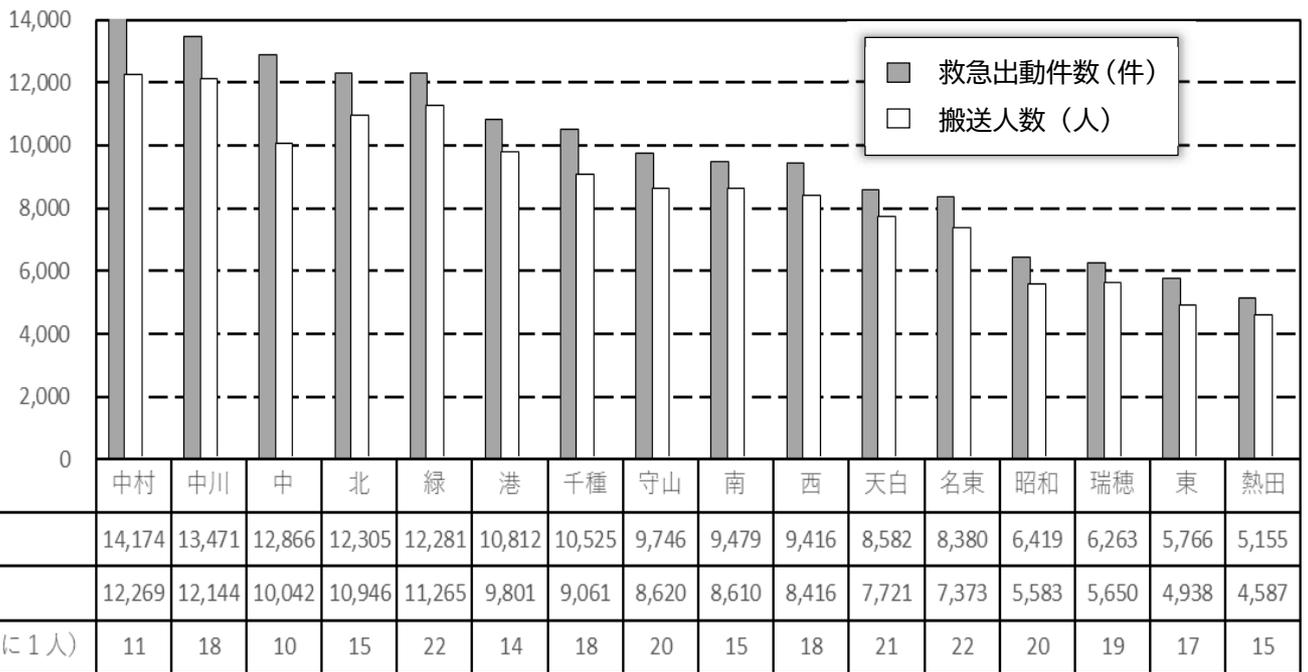


図1 名古屋市における救急出動件数と搬送人数（※市外のデータは含まず）

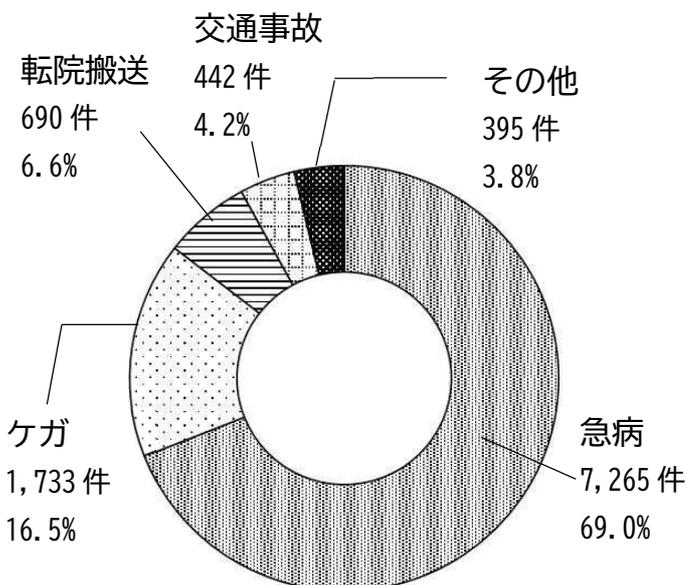


図2 千種区における救急出動件数の内訳

次に千種区の救急出動件数の内訳をみてみます。(図2) 急病による出動件数が最も多く、7,265件(69.0%)、ついで、ケガの1,733件(16.5%)、転院搬送の690件(6.6%)です。これらの順位は、名古屋市全体と同一です。令和5年は、猛暑による熱中症患者の増加などが救急出動件数を増加させた要因と考えられます。千種区では、1日に約29件の救急出動があります。